

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義実習
科 目 名	救急処置法		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期	教室名	
担 当 教 員	奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員、赤十字救急法指導員			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師ならびにスポーツトレーナーにおいて必要な救急処置を現場で実践できるように理解を深めていく						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験:70%						
2. レポート: 20%						
3. グループワーク中の態度・発表: 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
日本体育協会 共通科目テキスト I						
日本赤十字社 赤十字救急法基礎講習						
日本赤十字社 赤十字救急法講習						
配布プリント						
《授業外における学習方法》						
配布資料の読み込みと救急法に関心を持ち赤十字などがネット上で公開している救急法の方法について予習、復習をする。						
《履修に当たっての留意点》						
在学中の臨床実習、スポーツ現場実習において知識、技術共に最低限身に付けておかねばならない内容です。						
実習に参加するためにも、また、夏休み期間中に基礎講習、救急法講座が開催されるため、しっかりと内容の理解に努めてほしい。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	応急処置の意味、トレーナーの役割、応急処置の基本的留意点等について理解できるようになる。	共通科目テキスト I 赤十字救急法基 礎講習 配布プリント	トレーナーの活動について調べる。 トレーナーバックの中身について調べる。	
		各コマに おける 授業予定	救急処置の基本的知識			
第 2 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	緊急対応計画や評価について理解できるようになる。	共通科目テキスト I 赤十字救急法基 礎講習 配布プリント	スポーツ現場における救急処置について自身の経験を思い出す。 また、実際のスポーツ現場での救急処置について調べる。	
		各コマに おける 授業予定	スポーツ現場における救急処置			
第 3 回	演 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	心肺蘇生法の必要性や注意点を理解し気道確保、胸骨圧迫を実践することができるようになる。	共通科目テキスト I 赤十字救急法基 礎講習 配布プリント	前回までの復習。 心肺蘇生法について調べる。	
		各コマに おける 授業予定	救急時の救命処置1			
第 4 回	演 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	AEDの使い方や注意点を理解し実践することができるようになる。 人口呼吸の注意点や方法を理解し実践することができるようになる。	共通科目テキスト I 赤十字救急法基 礎講習 配布プリント	AEDについて機器や使用方法について調べる。 前回内容の復習。	
		各コマに おける 授業予定	救急時の救命処置2			
第 5 回	演 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	頭頸部・脊椎外傷時の留意点について理解することができるようになる。	共通科目テキスト I 赤十字救急法基 礎講習 配布プリント	心肺蘇生法について復習し、一連の流れでできるように練習しておく。	
		各コマに おける 授業予定	救急時の救命処置3			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	応急処置の必要性、心臓発作、脳卒中、熱中症、呼吸困難についての症状、手当について理解できるようになる。	共通科目テキスト I 赤十字救急法講習 配布プリント	心疾患、脳血管障害について調べておく。
		各コマにおける授業予定	内科的疾患の応急処置1		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	応急処置の必要性、心臓発作、脳卒中、熱中症、呼吸困難についての症状、手当について理解できるようになる。	共通科目テキスト I 赤十字救急法講習 配布プリント	アナフィラキシー、食中毒、薬物中毒について調べておく。
		各コマにおける授業予定	内科的疾患の応急処置1		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	低血糖、中毒、食中毒、薬物中毒、アナフィラキシーなどの症状、手当について理解できるようになる。	共通科目テキスト I 赤十字救急法講習 配布プリント	1つの競技を選択し、その競技中に救急処置が必要になった場合のシュミレーションをしてみる。
		各コマにおける授業予定	内科的疾患の応急処置2		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	救急体制の重要性と計画について理解できるようになる。	共通科目テキスト I 赤十字救急法講習 配布プリント	上記8回分の内容の復習。配布プリントの確認。
		各コマにおける授業予定	現場における救急体制		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	上記8回の内容についてテストを行い内容の理解度を確認し、解らなかった部分を再学習し内容の定着を目指す。	共通科目テキスト I 赤十字救急法講習 三角巾 配布プリント	三角巾に触れ感触を確認しておく。 赤十字がネットでアップしている三角巾の動画をチェックしておく。
		各コマにおける授業予定	確認テスト		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	三角巾のたたみ方、結び方、額、耳のきずの手当ができるようになる	共通科目テキスト I 赤十字救急法講習 三角巾 配布プリント	三角巾のたたみ方の復習。 三角巾の本結びが完璧にできるように練習しておく。
		各コマにおける授業予定	きずの手当1		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	三角巾を用いた頭部のきずの手当ができるようになる。	共通科目テキスト I 赤十字救急法講習 三角巾 配布プリント	たたみ三角巾を正確かつ迅速にできるよう練習する。 頭部の手当を練習しておく。
		各コマにおける授業予定	きずの手当2		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	三角巾を用いた膝のきずの手当、提肘ができるようになる。	共通科目テキスト I 赤十字救急法講習 三角巾 配布プリント	鎖骨骨折や足関節捻挫について症状などを調べる。 前回までの手当についての練習を欠かさずに行う。
		各コマにおける授業予定	きずの手当3		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	三角巾を用いた鎖骨骨折や足関節捻挫の手当ができるようになる。	共通科目テキスト I 赤十字救急法講習 配布プリント	血液に関する解剖、生理について教科書を予習し、理解しておく。 止血帯止血法で用いるターニケットについて調べておく。
		各コマにおける授業予定	骨折、捻挫の手当		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	上記14回の内容について復習を行い、テストにてアウトプットする事により、学習内容の到達度の確認と知識の定着を目指す。	共通科目テキスト I 赤十字救急法基礎講習 赤十字救急法講習	上記14回の内容の再確認、復習をしっかりとしておく。 配布プリントの確認。
		各コマにおける授業予定	まとめ・期末試験		